

科目名	日本語教育方法論特講	担当者	シマダ 島田 めぐみ	期間	通年	単位数	4
-----	------------	-----	---------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>日本語教育を考える際、教育の場（日本国内、国外）、機関（初等教育、中等教育、高等教育）は多種多様であり、対象者も年少者、学生、ビジネス関係者、日本の生活者など多様化している。また、教育の方法も常に変化し、新しい教材が次々と開発されている。本講義では、日本語教育の状況、言語学、異文化コミュニケーション、指導法、評価法、教授法、社会、歴史、教材などの観点から多角的に日本語教育を概観し、個々の環境に適した方法を考察する。</p> <p>世界の日本語教育を適切に考察する能力、日本語教育に関する問題解決能力、挑戦力、指導力、自己分析能力の向上を目指す。</p> <p>【日本大学教育憲章ルーブリック：A-2:4, A-4:4, A-5:4, A-7:4, A-8:4】</p>		
到達目標	<p>【一般目標（GIO）】</p> <p>日本語教育について広く理解し、個々の教育現場に適した日本語教育の方法を多角的に考察する能力を身につけることを目標とする。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>歴史や社会環境と日本語教育を関連づけることができる。</li> <li>国内外の日本語教育の多様性を説明することができる。</li> <li>日本語教材の歴史・変遷を理解した上で、適切に教材を選び、活用することができる。</li> </ul>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>manaba folio を利用し、ポートフォリオに基づき自身の学修を振り返る</li> <li>manaba folio 上で、ピア・レスポンス活動を行う。</li> </ul> <p>【学修方略（LS）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教材と関連文献を熟読する。（自習）</li> <li>課題に関し、小規模調査を実施する。（自主研究）</li> <li>レポートを執筆する。（レポート作成）</li> <li>他の受講者のレポートを読み、テーマに関し理解を深める。（ディベート）</li> <li>他の受講者のレポートについて感想・意見を述べる。（ディベート）</li> </ul> <p>【学修時間】</p> <p>各レポート課題の準備から完成までに、以下を目安に最低 45 時間の学修時間を要する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教材と関連文献の学修：20 時間</li> <li>事例の分析とレポート執筆：15 時間</li> <li>レポート遂行と最終稿の完成（教員の添削指導、ピア・レスポンスを含む）：10 時間</li> </ul>		
スケジュール	<p>&lt;前期&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レポート課題1 締切：6月末（初稿）（最終稿提出期限：前期締切日）</li> <li>レポート課題2 締切：8月末（初稿）（最終稿提出期限：前期締切日）</li> </ul> <p>&lt;後期&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レポート課題1 締切：11月15日（初稿）（最終稿提出期限：後期締切日）</li> <li>レポート課題2 締切：12月末（初稿）（最終稿提出期限：後期締切日）</li> </ul>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80 %	形式（構成、引用の仕方、適切な表現）、内容（論旨の明快さ、獨創性、課題把握の適切性）
	観察記録	20 %	ピア・レスポンスへの参加度、レポート添削への対応等
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師によるフィードバック、必要に応じピア・レスポンスをもとにレポートを完成させることが求められる。</li> <li>無断引用、不適切な引用がなされた場合は、不正行為とみなされ、失格となる場合がある。</li> </ul>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 遠藤織枝（編） 教材名： 『日本語教育を学ぶ その歴史から現場まで [第二版]』（三修社，2011） ISBN： 978-4-384-05649-5 2,400 円+税
	日本語教育の状況，言語学，異文化コミュニケーション，指導法，評価法，教授法，社会，歴史などの観点から多角的に日本語教育を概観している本である。世界各地の日本語教育現場の体験談や現地レポートが多く掲載されており，日本語教育の多様性が理解できる。
参考図書	国際交流基金『海外の日本語教育の現状 2015 年度日本語教育機関調査より』Web 版 ( <a href="https://www.jpff.go.jp/j/project/japanese/survey/result/survey15.html">https://www.jpff.go.jp/j/project/japanese/survey/result/survey15.html</a> )
履修上のポイント	基本教材 1 は日本語教育の基礎的内容なので，いずれの章も十分理解してほしい。第 1 章の「日本語を学ぶ人・教える人」の海外の情報は，国際交流基金の 2009 年度の調査資料をもとに執筆されているので，最新の 2015 年度の情報は上記参考図書を参照すること。
レポート課題 1	第 1 章，第 8 章，第 9 章を読み，歴史がどのように日本語教育に影響を及ぼしていたかを考察し，さらにこれからの日本語教育のあり方を論じる。（4,000 字～5,000 字） <b>留意点：</b> 歴史的事実と日本語教育の関係を把握して，現在における学習者のニーズの変化を理解して，考察すること。「引用」と「自己の考察」部分を明確に分けて記述すること。
レポート課題 2	第 1 章、第 4 章、第 5 章、第 6 章を読んだ上で，地域・対象者を 1 つ設定して，どのような日本語教育を実践するか，コースデザインを検討する。国際交流基金の海外の日本語教育の現状 2015 年度調査の結果をニーズ把握の参考にする。（3,000 字～4,000 字） <b>留意点：</b> シラバス，教材，具体的な活動（1 例），評価の方法を含める。第 1 章の体験談，第 6 章現地レポートを参考にすること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 吉岡英幸・本田弘之 教材名： 『日本語教材研究の視点-新しい教材研究論の確立をめざして』（くろしお出版，2016） ISBN： 978-4-87424-716-7 2,400 円+税
	日本語教材を多角的な視点から検討した教材であり，日本語教材研究の概要，現状が把握できる。日本語教材がどのように変遷したか歴史的な検討，日本語教材の多角的な視点からの分析，どのように使用されるのかという分析が行われている。
参考図書	『みんなの日本語初級 I 第 2 版本冊』（スリーエーネットワーク，2012） 『みんなの日本語初級 II 第 2 版本冊』（スリーエーネットワーク，2013） ISBN： 978-4384056495，978-4883196463 各 2,500 円+税
履修上のポイント	日本語教材を分析することにより，日本語教育の方法や内容，さらには習得を理解することが可能であるため，基本教材 2 を通して教材分析の方法を理解すること。
レポート課題 1	第 4 章，第 5 章を読んで，日本語教育において教科書を使用する際の利点と問題点を整理した上で，教科書を選択・使用する際に検討すべき点について論じる。（3,000 字～4,000 字） <b>留意点：</b> 第 7 章，第 9 章を参考にすること。「引用」と「自己の考察」部分を明確に分けて記述すること。
レポート課題 2	参考図書を含む日本語教科書 1 冊以上を対象に，第 4 章，第 5 章，第 9 章のいずれかの分析のポイントを参考に，教材を分析する。（3,000 字～4,000 字） <b>留意点：</b> 受身など文法項目の取り上げ方（第 4 章），コーパスとの比較（第 5 章），導入の方法（第 9 章），いずれかの視点から分析すること。